

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-62C	17-001	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Alcohol consumption and bladder cancer risk with or without the flushing response: The Japan Public Health Center-based Prospective Study. 顔面発赤の有無別の飲酒量と膀胱がんリスクとの関連：JPHC 研究		
執筆者		
Masaoka H, Matsuo K, Sawada N, Yamaji T, Goto A, Shimazu T, Iwasaki M, Inoue M, Eto M, Tsugane S; Japan Public Health Center-based Prospective Study Group.		
掲載誌		
Int J Cancer. 2017 Dec 15;141(12):2480-2488. doi: 10.1002/ijc.31028. Epub 2017 Sep 15.		
キーワード		PMID
膀胱がん、顔面発赤、コホート研究		28875523
要 旨		
目的： アセトアルデヒド代謝酵素の不活性者が多い東アジア民族において、顔面発赤の有無をアセトアルデヒド代謝の指標として、飲酒と膀胱がんリスクとの関連を検討する。		
方法： 日本における人口ベースのコホート研究において 95,915 人の男女を 1990 年から 2012 年まで追跡し、Cox 比例ハザードモデルにてハザード比を算出した。男性 354 人と女性 110 人が膀胱がんを発症した。		
結果： 全体では飲酒量と膀胱がん発症との関連は認められなかった。男性の顔面発赤者では、飲酒量と膀胱がんリスクとの関連が逆 U 字型を示し、週 151-300g 摂取者で最も高かった（非飲酒者に比較してハザード比 1.67）。顔面発赤のない男性では、飲酒量と膀胱がんリスクとの有意な関連はなかった。		
結論： アルコール摂取後のアセトアルデヒド産生が膀胱がんリスクと関連する可能性がある。アセトアルデヒド代謝の遺伝子変異を考慮したコホート研究の知見が必要である。		